

言葉の架け橋
～“訳”の挑戦を探究する～

授業者 附属池田中学校 永井 涼子

1. 対象 附属池田中学校 第2学年C組(36名)

2. 単元目標

・知識及び技能に関して

- ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむ。(3)ア
- ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方について知ることができる。(3)イ

・思考力、判断力、表現力等に関して

- ・読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができる。B(1)エ
- ・観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。C(1)エ
- ・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。C(1)オ

・学びに向かう力、人間性等に関して

- ・言葉がもつ価値を認識するとともに、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

3. 指導に当たって

(1) 単元を通して育む「グローバル市民」と学習との関連

・グローバル市民の選択項目と単元／学習との関連について

- ・この単元では「主体的な人」としての資質を育みたい。

「枕草子」の三種類の現代語訳を比べ読みし、そのうち一冊の書評を作成することを本単元のパフォーマンス課題とする。この活動に至るまでの学習を通じて、生徒に作品は読み手を意識して作られていることを理解させ、今後の自分の創作活動につながる表現力を育てたい。また、訳はあくまで訳であるため、原文の意図や雰囲気は完全には表現しきれない場合がありうることを理解した上で、それでも訳があることで文学作品は長く広く読み継がれてきたことを認識し、自分の言語文化にも、異なる言語文化にも、親しみ、尊重する態度を育てたい。

・目標達成するためにつけるべき力

- ・訳者が選んだ言葉や表現に気づき、それが意図することをこれまでの経験や学んだこととつなげて考えようとする力。
- ・仲間との対話を通して自らの考えを整理し、それを言語化する力。
- ・読み手の立場に立って文章をまとめ、紙面の構成を工夫する力。

(2)教材観

平成 23 年(2011 年)4 月より、小学校国語科でも古典が本格的に導入されるようになった。

現行の小学校学習指導要領では、第 5 学年及び第 6 学年の内容として、音読などを通して、言葉の響きやリズムに親しむことが挙げられている。加えて、古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることが挙げられており、古典への興味・関心を深めるようにすることが重要とされている。

小学校での学習を受けて、中学校学習指導要領では、第一学年の内容として、訓読の仕方を知り、音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことが挙げられている。そして、第二学年の内容では、作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことに加え、現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることが挙げられている。

本単元で取り上げる「論語」及び「枕草子」は、生徒たちに比較的馴染みがあり、また、作品に表れたものの見方や考え方をとらえやすい古典作品だと思われる。その理由として、「論語」「枕草子」ともに、小学校の教科書にも多く取り上げられていることと、その内容について、「論語」は日本の社会・学校・家庭において「当然」の考え方として浸透していること、「枕草子」は随筆という特性上、作者自身のものの見方や考え方が直接表現されている箇所も多いことがあげられる。したがって、二作品とも、古典の世界に親しみ、古典に表れたものの見方や考え方を知るには、適した教材だと考える。

ところで、自分が不自由なく使える言語以外で書かれた文学作品を学ぶ際、小学校課程及び中学校課程においては、ほとんどの場合“訳”を参照する。それは外国語の作品のみならず、古典文学を学ぶ際も例外ではないことは、先述の学習指導要領の内容からも明らかである。しかし、訳には必ず訳者の解釈や意図が反映されるため、原文は同じでも訳者ごとに異なる訳がなされうる。場合によっては、訳す過程で原文から失われるものがあるかもしれないし、意図や雰囲気をも十分に伝えきれないものもあるかもしれない。

本単元で取り上げる「論語」の訳には、大きな解釈の相違が見られないものもあれば、「子在川上曰」のように、原文の解釈に相違が見られるものもある。ここから、訳には訳者の解釈が反映される、つまり、対象が同じであっても、そのとらえ方は、社会状況も含めた“視点”によって異なる場合があるということを学ばせたい。また、「枕草子」は、一般的な現代語訳をしたものに加えて、コミカライズしたものや超訳とよばれるものも数多く出版されている。それぞれの現代語訳が作者の意図をどの程度反映しているのか、意図を十分に伝えきれない部分があるとすれば、それはどのような点なのか、といったことについて比較・検討することで言語感覚を豊かにし、今後の読書において役立てられるようにしたい。また、作品は読み手を意識して作られていることを理解し、自身の創作活動に活かせる表現力を育むことへつなげたい。

(3) 生徒観

知識及び技能(3)ア(「作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむこと。)」について、生徒は、小学校での学習に加え、中学校では、一年生時に「竹取物語」「故事成語」などを通じて、歴史的仮名遣いをはじめとする文語のきまりを学習している。また、二年生である今年度は、一学期に「平家物語」の祇園精舎及び敦盛の最期を通して、音読することで語り物としての特徴を実感したり、敦盛及び熊谷の生き方を通して武士としてのものの見方や考え方について学習したりしている。

今回の授業に先立ち、授業者が今回の授業対象者の附属池田中学校二年生に対しアンケート(有効回答数 130)を行なったところ、「古典の学習が好きですか」という項目に対し、49人(37.7%)の生徒が「好き」「どちらかというとき」と回答しているのに対し、60人(46.2%)の生徒が「好きでない」「どちらかというとき好きでない」と回答しており(図1)、どちらかというとき古典に拒否感を持つ生徒が多いようである。

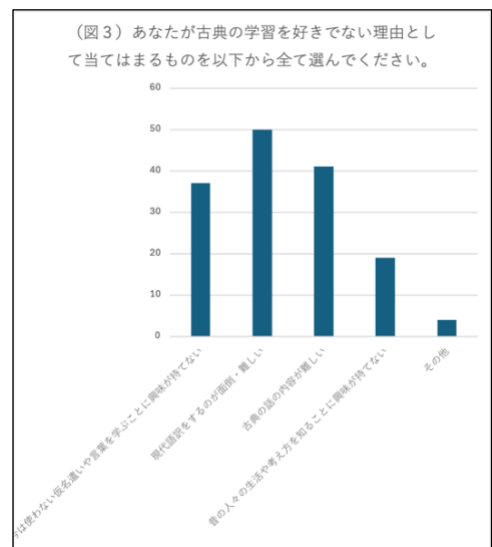
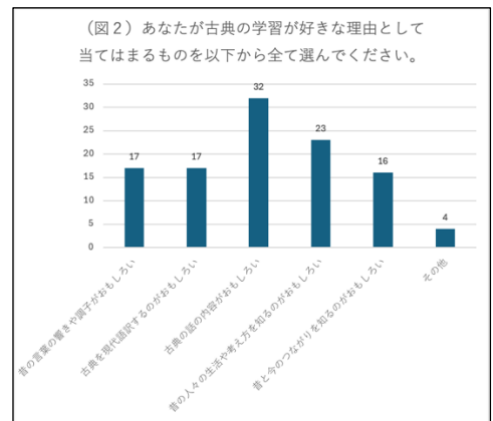
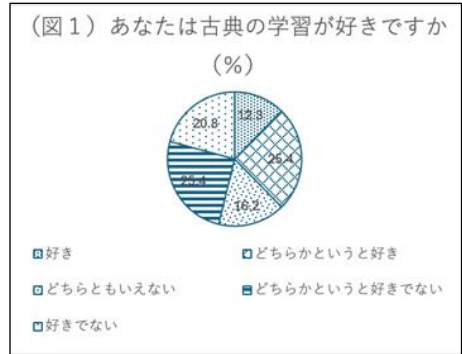
次に、「好き」「どちらかというとき」と回答した生徒に、その理由を複数選択で聞いたところ、最も多いものが「古典の話の内容がおもしろい」で、「昔の人々の生活や考え方を知らるのがおもしろい」「昔と今の繋がりを知らるのがおもしろい」と続いた(図2)。

一方、「好きでない」「どちらかというとき好きでない」と回答した生徒にも、その理由を複数選択で聞いたところ、「現代語訳をするのが面倒・難しい」が最も多く、「古典の話の内容が難しい」がそれに続いた(図3)。

「どちらともいえない」と回答した生徒(21名・16.2%)には、自由記述で「どのような要素・手助けがあれば、古典の学習が好きになれそうですか」と聞いたところ、18名の回答があり、最も多かったのが「現代語で書かれていたら」のような現代語訳に関する記述と「話の面白さ」など教材の内容に関する記述であった(どちらも5件)。それに続くのが「アニメ」や「イラスト・絵」などの視覚からの情報を求めるものであった(3件)。

以上のことから、今回授業対象の生徒たちにとって、古典が独特の言葉や文法で書かれており、不自由なく使える言語の形ではないことが、古典作品に親しみ、そこに表れているものの見方や考え方を知らねることの妨げになっていると思われる。したがって、今回の単元では、教科書に載っているような現代語訳以外にもさまざまなものがあることを提示することで、古典に親しむ態度を養いたい。

また、思考力、判断力、表現力 B(1)エ【読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えること。】及び C(1)エ【観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること】並びに C(1)オ【文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。】については、今年度、一学期の学習のパフォーマンス課題として、エッセイまたは作文を作成し、コンクールに応募するという課題を課した。その課題に取り組むにあたり、過去の



コンクールの受賞作品を読み、出だし・まとめの工夫、構成の仕方、言葉の選び方や表現の仕方など、その作品のいいところを分析し、自分の作品に活かすという活動を行なった。そののち、自分の作品のテーマ決定のために、授業で学んだり、身近なところで感じたり体験したりした世界の課題について振り返ってテーマを選択し、そのテーマに対し、自分たちはどんなことができるかを考える活動を行なった。これらの活動の中で、生徒たちは言葉の選択や表記の仕方などの表現の効果についてはよく理解し、指摘できていた。しかし、構成については、導入の工夫についての言及は比較的多くの生徒ができていたものの、展開・まとめの工夫についての言及はほとんど見られず、言及が見られたものも多くが時系列関係の指摘にとどまっていた。したがって、効果的な構成の工夫に気づき、自分の文章に生かしていくことが今後の課題の一つとして考えられる。また、自分の考えを知識と結びつける際に、知識を根拠として自分の考えを述べることはできているが、その考えを具体的な場面に落とし込むには至っていない生徒が見受けられた。したがって、他者の考えの道筋などを知り、自分の考えと比較することなどを通して、自分の考えを広げたり深めたりすることも課題の一つとして挙げられる。

これらの生徒たちの課題に対し、古典やその古典が書かれた背景を理解する過程で、教科書以外の文献にもふれ、その構成の仕方や論理の展開の仕方についても意識して読ませるようにしたい。加えて、後述する「書評を書く」というパフォーマンス課題に取り組む前に、実際の書評をいくつか読ませ、どのような構成の工夫が、人をひきつけたり、考えを伝えやすくしたりするのかを考えさせたい。その上で、自分が実際に書く活動を行う中で、自分の考えをよりわかりやすく、実感を持って伝えるにはどうしたらいいかを読み手の立場に立って考えさせたい。その際、構成に加え「具体的」な場面を想定することで自分自身の考えも深まり、相手への説得力も増すということに気づかせたい。

(4) 指導観

今回授業対象の生徒たちにとって、古典作品が古典独特の言葉と文法で書かれていることが、作品に親しみ、そこに表れているものの見方や考え方を知らぬことの妨げになっていると思われるのは先述の通りである。しかしながら、現行の教科書には、ほぼ例外なく現代語訳または語注がついている。それがあってなお、生徒からこのような声上がるのはなぜなのか。それは、教科書に載っているような現代語訳には、生徒たちにとって馴染みの薄い表現が用いられており、その結果、古典作品で描かれる話は「自分とは異なる世界の話」になってしまい、その世界観を具体的にイメージできないからではないか。

しかし、裏を返せば、これは先述のアンケートもふまえて考えると、馴染みのある表現で現代語訳がなされれば、古典の話の内容や、そこに表れているものの見方や考え方によって、生徒が古典に魅力を感じるようになる可能性は大きいのではないかと推察される。現に、一学期に「平家物語」を学習した際に、一人の生徒が振り返りに「古典文学と今の作品を完全に分離して考えすぎていたかもしれない。古文も現代文と同じように小説としても楽しめるし、今と違った考え方もあるから新たな視点の勉強にもなる。あと、いい話が多いし今までとは違った表現が多いから読んでいて新鮮。敬遠していないでもっと早く触れればよかった。古典文法とかを覚えさえすれば現代文より楽しめる、一つの文学のジャンルとして成立していると思った。」(原文ママ)と記述している。だが一方で、馴染みのある表現にすれば、伝わりにくくなることや失われるものもあるかもしれない。

そこで、本単元の指導に当たり、「論語」及び「枕草子」を読む際に、教科書以外の資料も提示しながら、時代背景や作者及び登場人物の人物像をしっかりと把握させ、なぜその作品が生まれたのか、どのような意図で書かれたのかということを生徒たちに考えさせたい。

その上で、本単元のパフォーマンス課題として、書評家になり切って書評を書くという言語活動を行う。具体的には、授業者が提示した「枕草子」の三種類の現代語訳を読み比べ、それぞれの現代語訳が原文の意図や雰囲気をどの程度反映しているのか、意図や雰囲気を十分に伝えきれていない点があるとするれば、それはどのような点なのか、といったことについて考察し、読み比べた物の中から一冊を選び、書評を書くという活動を行わせる。以下はパフォーマンス課題の状況を設定した GRASPS (Goal、Role、Audience、Situation、Product、Standard の頭文字をとったもの) である。

Goal (目的)	枕草子を読みたいと思わせるような書評を書く。
Role (役割)	書評家
Audience (相手)	書評雑誌の読者
Situation (状況)	出版社に「今古典がおもしろい!」というテーマで、人々が古典に親しめる本を紹介する原稿の執筆を依頼された。
Product (作品)	書評 (A4 サイズ 見開き 1 ページ)
Standard (評価の観点)	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介する本に使われている言葉や文体、表現等について、適切な指摘ができていないか。 ・自分の考えを論理的に説明するのに適した構成になっているか。 ・読み手を意識した作品になっているか。 ・適切な言葉を使用し、正しい文法で書けているか。

この活動を通じて、生徒たちには、訳はあくまで訳であるため、原文の意図を伝えきれなかったり、場合によっては誤った印象を与えたりすることがあるかもしれないことを理解させた上で、それでも訳があることで文学作品は長く広く読み継がれる可能性があることを認識させたい。そして、自分の言語文化にも、異なる言語文化にも、親しみ、尊重する態度を育てたい。また、作品は読み手を意識して作られていることを理解させ、今後の自分の創作活動につながる表現力を育てたい。

本時では、先述のパフォーマンス課題に向けて授業者が提示した三種類の現代語訳について、個人で現代語訳の考察を行う活動と、個人の考察を共有し深める活動とを行う。これらの活動を通して、訳者が選んだ言葉や表現に注目し、訳者の意図をこれまでの経験や学習とつなげて考えようとする力と、仲間との対話を通して自分の考えを整理しようとする力を育てたい。そしてさらに、生徒が古典を「自分とは異なる世界の話」ではなく、「自分たちにつながる話」としてとらえ、「古典を学ぶ意義」を見出すことにつなげたい。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア</p> <p>・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方について知っている。(3)イ</p>	<p>・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。B(1)エ</p> <p>・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。C(1)エ</p> <p>・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。C(1)オ</p>	<p>・古典に表れたものの見方や考え方を積極的に知ろうとし、学習の見通しをもって現代語の言語感覚とつなぎ合わせ、我が国の言語文化への理解を深めようとしている。</p>

5. 単元の指導計画(全25時間)

時間	学習内容	主な評価規準	評価の観点			評価方法
			知技	思考	態度	
1・2	<p>・単元全体の確認をする。</p> <p>・シェル・シルヴァスタイン作「大きな木」(絵本)の本田錦一郎訳と村上春樹訳を読み比べ、共通点・相違点等を見出す。</p>	<p>同じ原文をもとにしても、訳者によって異なる訳がなされ、それにより読み手が受ける印象が異なることに気づいている。</p>		●	●	ワークシート OPPシート※
3	<p>漢文の訓読の方法について理解する。</p>	<p>訓点に基づき、訓読文を書き下し文にできている。</p>	●		●	ワークシート OPPシート
4~6	<p>「二千五百年前からのメッセージ—孔子の言葉—」より「学而」「顔淵」「為政」の内容を、教科書掲載の和訳を参照しながら、理解する。</p>	<p>読んで理解したことや考えたことを、自分の知識や経験と結びつけている。</p>		●	●	ワークシート OPPシート
7	<p>「子在川上曰」(子罕第九)について、漢和辞典を用いて和訳する。</p>	<p>漢和辞典等で調べたことに基づいて、自分なりの和訳ができている。</p>	●		●	ワークシート OPPシート
8・9	<p>孔子やその弟子及び論語についての知識や孔子の生きた時代、古注・新注が生まれた時代等についての理解を深める。</p>	<p>今後の学習に繋がられるように、作品の周辺人物の人物像や時代背景について理解している。</p>		●	●	ワークシート OPPシート

10・11	「子在川上曰」(子罕第九)の古注と新注とを比較し、解釈の妥当性について考える。	資料を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを持っている。		●	●	ワークシート OPPシート
12	歴史的仮名遣いの復習を行い、「枕草子」(「春はあけぼの」)を音読する。	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し、音読することができる。	●		●	ワークシート OPPシート
13・14	「枕草子」(「春はあけぼの」)について、現代語訳をもとに理解し、「古今和歌集」から授業者が作成した資料と比較しながら、作者のものの見方や考え方をとらえる。	文章を読んで理解したことと資料から得た知識をもとに、自分の考えを表現している。		●	●	ワークシート OPPシート
15	「枕草子」(「うつくしきもの」)について、音読ののち、語注をもとに内容を理解する。	語注に基づき、本文の内容を理解している。	●		●	ワークシート OPPシート
16	「枕草子」(「雪のいと高う降りたるを」)について、音読ののち、示された語注をもとに内容を理解する。	語注に基づき、本文の内容を理解している。	●		●	ワークシート OPPシート
17・18	清少納言や「枕草子」が書かれた時代や書かれた意図について、資料を読み、理解する。	作品の周辺人物の人物像や時代背景について理解している。	●		●	ワークシート OPPシート
19	パフォーマンス課題の確認をしたのち、既習の「うつくしきもの」について、三種類の現代語訳(原文により忠実なもの・超訳的なもの・コミカライズされたもの)を読み、それぞれの印象を掴む。	パフォーマンス課題を意識しながら、それぞれの現代語訳の全体的なイメージをつかんでいる。		●	●	ワークシート OPPシート
20 【本時】	・既習の「春はあけぼの」と「雪のいと高う降りたるを」のいずれかの章段についての異なる三つの現代語訳を精読し、その特徴や表現の効果等について考察する。	既習事項を関連づけて、担当の章段の現代語訳の特徴及び表現の効果について考察し、自分の考えを表現している。		●	●	ワークシート OPPシート
21・22	前時の考察について全体で共有し、「古典」が読み継がれるために必要なことを考える。	三種類の現代語訳について、前時に示した観点から、自分の考えを深めている。		●	●	ワークシート OPPシート

23	パフォーマンス課題に取り組むにあたり、実際の書評を読み、表現や構成の工夫について考える。	読み手を意識した表現や構成について考察し、自分の考えを深めている。		●	●	ワークシート OPPシート
24~25	パフォーマンス課題(書評)に取り組む、完成させる。	読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章・紙面を整えている。	○	○	○	ワークシート OPPシート 書評【パフォーマンス課題】

●・・・形成的評価(指導に活かす評価) ○・・・総括的評価(記録に残す評価)

※OPPシート…一枚ポートフォリオ評価でもちいる。このシートに学習者が学習前・中・後の履歴を記録することで、学習や授業に関わる認知過程の実態を可視化され、形成的評価を図ることができる。

6. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・時代背景や作品の周辺人物の人物像などの既習事項も踏まえて、種類の異なる現代語訳について、それぞれの特徴、表現の効果、表現しきれない部分等について粘り強く考察し、自分の考えを持つことができる。

(2) 本時の評価規準

- ・訳者が選択した言葉や表現などに注目し、原文の意図や雰囲気をもどの程度反映しているのか、表現しきれない点があるとすれば、それはどのような点か、といったことについて、自分の考えを表現している。(思考・判断・表現)
- ・自分の考察と相手の考察を比較しながら、自分の考えを広げたり、深めたりしている。(思考・判断・表現)
- ・学習の見通しをもって、古典を現代語の言語感覚とつなぎ合わせ、我が国の言語文化への理解を深めようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

(3) 本時の学習とグローバル市民共通・ルーブリックとの関連

①項目 主体的な人

②内容 これまでの経験や学んだこと、試みの視点などから目標を持ち、その達成に向けて自主的に粘り強く取り組むことができる。

(4)展開

学習過程	学習活動および内容	指導上の留意点	評価の観点・方法
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあて及び学習内容を確認する。 ・課題を確認し、班内で、考察する章段を分担する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の目的を図示しながら説明する。 ・教室座席の縦列で、考察する章段を指定する。 	
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の「春はあけぼの」「雪のいと高う降りたるを」のいずれかについて、現代語訳を三種類読み比べ、読み手に与える印象が変わると感じた言葉や表現に印をつける。(授業者からの例示・3分、個人・4分)。 ・同じ章段を担当した者同士で、線を引いた部分を共有する。(ペア・2分) ・「枕草子のたくらみ」をもとに解釈した、清少納言が枕草子を書くことへの思いについて確認し、清少納言がどのような作品にしたかったのかを確認する。(全体・5分) ・“清少納言は枕草子をどんな作品にしたかったのか”という視点から、それぞれの現代語訳は清少納言の意図の何を表現できているのか、あるいは不十分なのかを考える(授業者からの例示・3分、個人・8分) ・4人班で、担当の章段から見えてきたことを共有し、グループで一枚、ロイロ・ノートのシートにまとめ、提出する(グループ・10分)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者から各章段一つずつ、例を示してから活動に入らせる。 ・自分では気づかなかった部分があれば、加えて線を引かせる。 ・前々時の活動で生徒から出た「枕草子に込めた清少納言の思いを表現するために、訳をするときに大切にしたいこと」をP.P.で映しながら、確認する。 ・授業者から「雪のいと高う降りたるを」を用いた例を示してから活動に入らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訳者が選択した言葉や表現などに注目し、どのような点が原文の意図や雰囲気を反映しているのか、表現しきれていない部分があるとするれば、それはどのような点か、といったことについて、自分の考えを表現している。(思考・判断・表現)ワークシート ・自分の考察と相手の考察を比較しながら、自分の考えを広げたり、深めたりしている。(思考・判断・表現)ワークシート・観察 ・学習の見通しをもって、古典を現代語の言語感覚とつなぎ合わせ、我が国の言語文化への理解を深めようとしている。(態度)ワークシート・観察

ま と め 5 分	<ul style="list-style-type: none"> ・次回、それぞれの現代語訳について班で共有したことを全体で共有した後、古典が読み継がれるために必要なことを考えることを伝える。 ・本時の学習の振り返りを OPP シートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の学習に見通しを持つよう、促す。 ・本時の学習で一番大切だと考えたことを記入するよう、促す。 	
---------------------------	---	--	--

(5) 準備物

教科書、国語便覧、ワークシート、OPP シート、Chromebook

7. 参考文献

- ・文部科学省『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 国語編』東洋館出版社、2018年
- ・文部科学省国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 国語』2020年
- ・松本修・佐藤多佳子・桃原千英子編著『続・その問いは、文学の授業をデザインする』明治図書、2022 年
- ・堀哲夫監修、中島雅子編著『一枚ポートフォリオ評価論 OPPA でつくる授業 子どもと教師を幸せにする一枚の紙』東洋館出版社、2022年
- ・シェル・シルヴァスタイン作・絵、本田錦一郎訳『おおきな木』篠崎書林、1976年
- ・シェル・シルヴァスタイン作・絵、村上春樹訳『おおきな木』あすなる書房、2010年
- ・吉川幸次郎『論語 上・下』角川ソフィア文庫、2020年
- ・本間康司 絵と文、越田 年彦 執筆・監修『世界の思想家ガイドブック 覚えておきたい人と思想 100 人』清水書院、2014 年
- ・春日井明監修、石井溪漫画『学習漫画 中国の歴史 1 中国文明のあけぼの』集英社、2006 年
- ・春日井明監修、阿部高明漫画『学習漫画 中国の歴史 5 宋王朝と北方民族の興隆』集英社、2006 年
- ・高田祐彦『新版 古今和歌集 現代語訳付き』角川ソフィア文庫、2009年
- ・山本淳子『枕草子のたぐらみ 「春はあけぼの」に秘められた思い』朝日新聞出版、2017年
- ・清少納言著、河添房江・津島知明訳注『新訂 枕草子 上・下 現代語訳付き』角川ソフィア文庫、2024 年
- ・清少納言著、八篠忠基翻訳『なりきり訳 枕草子 平安の衣食住を知れば古典がわかる』淡交社、2021年
- ・平田喜信監修・森有子マンガ『教科書にでてくる古典 マンガでさきどり 枕草子』くもん出版、2019 年

8.資料

項目	高等学校	中学校	小学校	
			高学年	低学年
主体的な人	これまでの経験や学んだこと、 新たな試みの視点 などから 目標 を持ち、その達成に向けて 自主的に粘り強く、創造的に 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだこと、 試みの視点 などから 目標 を持ち、その達成に向けて 自主的に粘り強く 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだこと、 試みの視点 などから 目標 を持ち、その達成に向けて 自主的に 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだことから 目標 を持ち、その達成に向けて 進んで 取り組むことができる。
つなぐ力のある人	これまでの経験や知識を関連づけて 創造的に 物事を考え、 周りの人たち や異なる文化圏の人たちとの 協働を構想・実践 することができる。	これまでの経験や知識を関連づけて物事を考え、 地域社会 の人たちとの 協働を構想・実践 することができる。	これまでの経験や知識を関連づけて物事を考え、 学校 の人たちと 協力して 取り組むことができる。	これまでの経験や知識をもとに物事を考え、 学級 の人たちと 力を合わせて 取り組むことができる。
探究力のある人	自らの問題として、 身近なコミュニティ や 世界の出来事 から課題を見出し、その解決に向けて取り組み、 振り返りながら、創造的に 追究することができる。	自らの問題として、 身近なコミュニティ から課題を見出し、その解決に向けて取り組み、 振り返りながら 追究することができる。	自らの問題として、 身の回り から課題を見出し、その解決に向けて取り組み、 振り返り することができる。	自らの問題として、 身の回り の課題に気づき、その解決に向けて取り組むことができる。
寛容な人	他者の意見や考え方に対して 共感と傾聴 の姿勢で接し、 多様性を尊重 しながら 相互理解 を深めることができる。	他者の意見や考えに対して 共感 の姿勢で接し、 多様性を受け入れ相互理解 を進めることができる。	他者の意見や考えに対して 共感の姿勢 で接し、 相互理解 を進めることができる。	他者の意見や考えに対して 共感の姿勢 で接することができる。